

はやくはやくっていわないで

教育研修部
佐々木 基了
MOTOKI SASAKI

昨年実施したオランダ、ベルギーの調査では、オランダ在住の北谷氏に大変お世話になった。北谷氏には、本春号から新たなコーナーで、欧州のサーキュラーエコノミーの情報を発信していただくので、現地の最新情報を楽しみにしたい。

さて、昨年の調査では、資源循環に取り組むオランダ、ベルギーの企業、団体、自治体など様々な関係者にヒアリング調査を行った。各主体が意欲的に資源循環の可能性を追求しており、目標を掲げていち早く取組みをスタートさせるスピード感に感服した。ただ、全ての取組みが順調に進んでいるわけではなく、様々な課題を抱えている状況がわかった。

一方、日本では、関係者と調整や根回しを着実にやり、失敗のない（最小限の失敗で）取組みを実行するプロセスが多い印象がある。欧州と比べると「はやく、はやく」という声もあるだろうが、時代の最先端にはならなくても着実に成果を積み上げるスタイルで、日本は取組みの価値を示して

いるのではないだろうか。

各国で取組みの方法やスピードに違いはあるが、世界全体で2030年、2050年、さらにはその先の社会に向けて試行錯誤を続けている。次の世代に「不確実性が高い世の中」ではなく、「明るい未来」が待っていると言えるように、様々な関係者のペースを尊重して協力し、担うべき役割を果たしていきたい。



アムステルダム市にある旧造船所のクレーンをリノベーションしたホテル

編集後記

新年度を迎えまして、JWセンターでは、電子マニフェスト事業、教育研修事業等において、安定的な運営、及び資源循環に向けた情報提供に取り組んでまいります。

本号から1年間、「コラム」は（株）ミダックホールディングスの代表取締役社長の加藤様にご執筆いただきます。

また、「欧州の最新動向」という新たなコーナーが始まりました。オランダ在住の北谷様より4回にわたり欧州の最新動向と成功事例をご執筆いただけることになりました。初回は、オランダのサーキュラーエコノミーの考え方や仕組み、所属する「The One Project」の活動をご紹介いただいています。

第13回を迎えました「産廃鼎談」では、西尾様（元環境事

務次官）をお迎えしまして、環境庁、環境省において環境政策をけん引されてきたご経験、ご感想、また今後を担う方々へのエールなど大変貴重なお話をさせていただきました。

「産廃クローズアップ」では（株）HARITA様のシュレッターラインと選別ラインを自動化した「素材化プラント」の導入状況を取材させていただきました。老舗の金属リサイクル事業から再資源化事業へ転換されています。

最後に、ご多忙の中ご執筆いただきました皆様、記事作成、取材にあたってご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。（広報室）

■本誌に関する連絡先：総務部広報室（e-mail:jigy@jwnet.or.jp）

<アンケートへのご協力のおお願い>

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ（以下のURL）に掲載しています。

本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JWセンター情報（季刊）VOL.25 NO.1

発行日：2025年4月15日発行 発行人：関庄一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒110-0005 東京都台東区上野三丁目24番6号
上野フロンティアタワー13階

TEL: 03-5807-5911 FAX: 03-5807-5912

<https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷：株式会社太陽美術